

○こどもの遊び環境の減少、熊本地震による交流の停滞、高齢化と担い手流出による農業基盤の維持の懸念等の課題に対し、新規作物の導入、観光商品開発、「農園で遊ぼう」を合言葉にするPLAYFARM計画の策定等を実施。

基本情報

- 所在地：熊本県宇城市
- 団体名：豊福地域・農の未来創造協議会
（協議会構成員）
企む農業実践塾、宇城市経済部国営事業推進課
両仲間子供会、両仲間区
- 実施地域：宇城市豊福地域（旧小学校区）
- 主産業：農業
（主要作物等）米、トマト、きゅうり、なす等

取組の概要

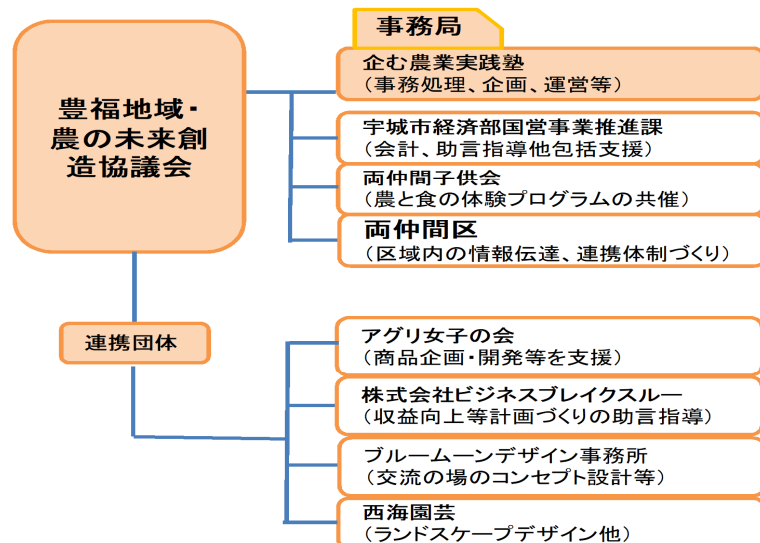
対策前(課題)

○住宅開発に伴うこどもが自然や農に触れる環境の喪失、熊本地震の影響による交流の停滞から生じる地域の活力の喪失、農業地域の高齢化と担い手流出等の状況に対し、取り組むべき課題を「稼ぐ人づくり」「稼ぐ地域づくり」「交流の輪づくり」「未来の担い手づくり」と整理し、課題の解決に向けた事業を推進する必要があった。

対策後(効果)

○稼げる農業への転換を目指した勉強会で、単価の高い新規作物の導入やフルーツ狩りなどの観光商品開発、高く売するためのマーケティング、販売方法等を検討し実施。また、農と食をテーマに子育て環境づくりと地域交流促進を目指した活動において、令和2年3月にPLAYFARM計画を策定し、有志の協力と手作りの活動で、令和3年5月に「農園で遊ぼう」を合言葉にするPLAYFARMが誕生した。

体制図



PLAYFARM計画



PLAYFARMホームページ

【事業全体のプロセス】

北部（住宅地）の開発の進行
南部（農業地域）の高齢化、担い手流出
熊本地震による交流の停滞

2016年～

きっかけ

○事業対象地域は、住宅地として開発される北部地域と、広大な農業地域の南部地域とで構成され、北部は開発に伴うこどもの良質な遊び環境の減少、熊本地震の影響による交流の停滞、南部は激しい高齢化と担い手流出で農業基盤の維持が懸念される状況。それに対し、若手担い手有志が発起し、地域の行政区や各種団体を巻き込んで地域協議会と連携体制を構築し、新たな未来を創造するプロジェクトを企画した。

2019年～

農山漁村振興交付金（地域活性化対策）の活用

事業開始 1 年目（取組実績）

- 地域のフルーツ等を活用した6次産業化に向けた計画づくりと商品試作（ブルーベリー、いちじくのソース等5種類）
- 豊福地域・農の未来ビジョンの策定
- PLAYFARM計画の策定



豊福地域・農の未来ビジョン

2020年～

事業開始 2 年目（取組実績）

- 果樹の苗づくり会やスイーツメニューの試食会等の本格的な実証実験を実施
- 豊福地域・農の未来ビジョンの国営基盤整備事業への反映について関係者との意見交換会を開催
- PLAYFARM計画に基づき工作会やワークショップを開催
- PLAYFARM計画に基づいた体験プログラムの開催



体験プログラム

2021年～

事業開始 3 年目（取組実績）

- ブルーベリーを活用したスイーツメニューの改良（2商品）
- 豊福地域・農の未来ビジョンの国営基盤整備事業への反映について関係者との意見交換会を開催
- PLAYFARM計画に基づき工作会やワークショップを開催
- PLAYFARM計画に基づいた体験プログラムの開催



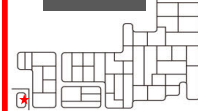
ブルーベリーを活用したスイーツ

今後の展望

2022年～
農山漁村振興交付金（農泊推進対策）の活用

豊福地域の魅力の深い「体験」を「ビジネス」に

- 稼げる農業への転換を目指した勉強会の開催と実験、農と食を軸とする交流の促進と子育て環境の整備を目指して活動し、それぞれに一定の成果を実現。
- 農泊事業を推進し、農と食の魅力をさらに磨き上げ、より多くの交流を生むことで、必要十分な収入を確保できる農業地域の実現を目指す。



○人口減少に伴い集落機能の低下や農業の衰退が進む名護市東海岸地域（二見以北10区）の連携体制を構築。地域の「食」を活用した持続可能な地域活性化を図り、地域製品の消費拡大や雇用拡大に貢献した。

基本情報

- 所在地：沖縄県名護市
- 団体名：名護東海岸アグリプロジェクト
（協議会構成員）株式会社 わんさか、二見以北地域振興会、二見あかカラシナ生産組合、名護市
- 実施地域：名護市二見以北10区
- 主産業：農業
（主要作物等）シークワサー、かぼちゃ等の地域の主要作物、二見あかカラシナ等の在来作物
- 主産業の成長産業化：農産物を中心とした地元産品を活用した商品開発や、交流拠点施設の魅力的な店舗作りを実施。充実した体験メニューや交流イベント等により地域を訪れるきっかけとし、交流人口の増加を目指す。

体制図

名護東海岸アグリプロジェクト

事務局

株式会社 わんさか

二見以北地域振興会

二見あかカラシナ生産組合

名護市農林水産部
農業政策課

連携

名護市商工会
名護市商工会女性部
NPO法人 久志地域観光交流協会



生産者会との連携会議

取組の概要

対策前(課題)

○集落機能の低下

名護市の農村エリアである当該地区は、人口減少に伴い集落機能が低下し、地域住民の暮らしへの悪影響が顕在化。

○高齢化等による農業の衰退

高齢化等により農地の維持管理が困難な農家が増加。生活を支える産業基盤が弱く、若年層が流出している。

○地域経済の停滞

地域の魅力を経済に活かす仕組みがない。山地集落のため、農地の大規模化による所得向上が見込めない。地域を訪れる観光客の立ち寄る場所が少ない。

対策後(効果)

○地域ぐるみの協力体制構築

地域で稼ぎ、人口や地域内経済を定常化させるため、生産、加工・販売、体験交流、行政等が連携した運営委員会を発足し、協力体制を構築。

○人材育成

若年層の地域理解や地域人材育成を目的とし、地元学校と連携した援農システムの検討や生産体験会等を実施。

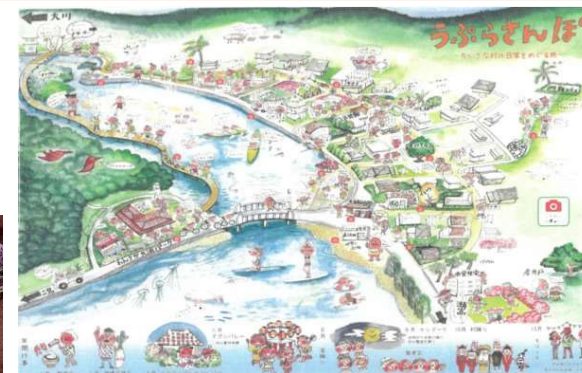
○地元食材を活用した商品開発

地域農産物や、伝統的な在来作物を活用した商品を開発し、交流拠点等で販売。また、交流イベントの実施や体験メニューの提供により、地域製品の消費拡大や売上げ増に貢献。



↑ 人材育成を目的とした
援農システムの考案・体験会

→ 地域農産物を活用した商品開発
（上）二見あかカラシナ瓶詰め
（下）ヨモギとアグーラード使用のちんすこう



地域の将来像(地域の活動計画より)

【事業全体のプロセス①】

～2016年

きっかけ

○過疎化による地域の暮らしへの影響が顕在化してきている名護市二見以北地域の活性化のため、地域で稼ぐ流れを作り、縮小を続ける人口や地域内経済を定常化させる必要がある。また、地域の伝統野菜、二見あかカラシナの存続のため、安定生産に向けた栽培方法の確立・ブランド化を図る必要がある。

2017年

・高齢化、人口減少
・基幹産業の衰退
・地域経済の停滞
・集落機能の低下

・農山漁村振興交付金（都市農村共生・対流及び地域活性化対策）の活用

事業開始 1 年目（取組実績）

○ 活動計画策定

- ・運営委員会の発足、定期的な協議会の開催、協力体制づくり

○ 農山漁村における農林水産物の販売・加工

- ・規格外品が多く出る地元農産物を活用した商品開発（トウガンスープ、ピクルス 等）
- ・販売イベントや拠点施設（わんさか大浦パーク）での地域農産物や加工商品のPR

○ 農山漁村の地域提案型活動

- ・地域活性化イベント「嘉例（カリー）祭」の考案・試行
- ・地域への集客施策（料理教室、PR動画制作等）、体験交流モニターツアーの実施 他



生産者等との連携会議・勉強会



地域活性化イベントの開催

2018年

事業開始 2 年目（取組実績）

○ 農山漁村における農林水産物の販売・加工

- ・地元食材を活用した商品開発、直売所・イベントでのPR（商談会での地元食材提案 等）
- ・地元農産物の栄養成分分析（琉球丸キンカン）、ベビーリーフ試作（二見あかカラシナ）

○ 農山漁村の地域提案型活動

- ・地域特集記事制作、地域活性化イベントの試行・PR、地元団体・企業との協力体制づくり
- ・高齢農家がつくった野菜の集荷活動 他



体験イベント開発（モニターツアー等）



地元農産物を活用した商品開発

2019年

事業開始 3 年目（取組実績）

○ 農山漁村における農林水産物の販売・加工

- ・地元食材を活用した商品開発・PR、地元農産物の栄養成分分析（二見あかカラシナ）
- ・農産物外販（学校給食登録、県内外の外販先の提案・提供サポート・PR）

○ 農山漁村の地域提案型活動

- ・援農・収穫イベントの考案・試行、協力体制づくり（出荷者との連携会議、勉強会 等）
- ・地域内広報誌の制作、地元農家の商品開発サポート 他



地域内広報誌の制作

【事業全体のプロセス②】

2020年

・新型コロナウイルス感染拡大によるイベント・交流販売等の制限

事業開始4年目（取組実績）

○ 農山漁村における農林水産物の販売・加工

- ・ 地元食材を活用した開発商品のPR・ブラッシュアップ
(プロモーション動画・記事制作、開発商品のパッケージ改良・ラベル制作 等)
- ・ 地元農産物の販促・外販サポート、商品開発勉強会等
- ・ 特産品プロデューサー育成事業研修・商品開発

○ 農山漁村の地域提案型活動

- ・ 地域の学校や子ども食堂と連携した援農・収穫イベントの考案・試行
- ・ WEBマガジンによる情報発信、生産者会との地産地消・PRイベントの実施 他



開発商品のブラッシュアップ



農産物と工芸品のコラボサポート

2021年

・コロナ収束後の地域経済の回復を見据えた情報発信の強化

事業開始5年目（取組実績）

○ 農山漁村における農林水産物の販売・加工

- ・ 地元食材を活用した商品開発・PR
- ・ 商品パッケージ刷新・地域の学校と連携した商品ラベルデザインの制作 等
- ・ 二見あかカラシナの存続のため、生産部会・加工品部会・伝統継承部会を発足
- ・ 地元農産物の販促・外販サポート

○ 農山漁村の地域提案型活動

- ・ 地域特集記事の製作、WEBマガジンの配信等による地域への集客施策
- ・ 地域の学校と連携した援農システムの考案、生産体験会等の実施 他



学校と連携した商品ラベルデザイン

2022年～

今後の
展望

地域の豊かな暮らしと活気づくりにために

- 地元産品を活用した魅力的な商品の開発や、各種イベント・集客施策等により、地域産品の消費拡大や雇用拡大に繋がった。

【直売所売上】(H28)18百万円→(R3)23百万円

【拠点施設雇用】(H28)10人→(R3)11人

- 今後は、構築済みの協力体制を活用して取組をさらに発展させ、地域産業の維持発展や雇用の創出による定住人口の増加に取り組んでいく。



援農・収穫イベントの実施



WEBマガジンの配信